

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京農工大学	整 理 番 号	1806
プログラム名 称	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成		
プログラム責任者	三沢 和彦	プログラムコーディネーター	大津 直子
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価と先回の現地視察での指摘事項の各項目に対して、丁寧に改善点が示された。今回もプログラムコーディネーターの交代があったが、当初から参加していた教員で、内容を熟知しており、質問事項に対する回答も概ね的確であった。改善にはプログラムオフィサーによる指導も大きく貢献しているように感じられた。 ・ 新産業創出に対しては、そのゴールの困難さを理解した上で、新分野創出や融合領域の新テーマ実施というようなブレイクダウンしたマイルストーンを設定し、そのステップに合わせて、教育プログラムの修正や、KPI評価項目の再設定がなされている。また、融合領域の研究については、農工連携だけでなく、医学や薬学分野との連携テーマも生まれており、新分野での人材育成が期待できる。 ・ 学生に対する生活支援に関しては、本プログラム以外の原資による新しい奨学金制度と組み合わせ実施することにより、卓越大学院の履修生に対しては奨学金などの支援が行き渡る形に改善されている。 ・ もともと農工大の特徴である女子学生の比率の高さは、本プログラムでも継続しており、外国人学生も数多く在籍するので、このような多様性を活かした研究成果にも期待できる。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本プログラムは、農工大の研究分野に幅広く適用できる形で設定されているので、大学全体への展開が可能と考える。また、全学を横断する形で女性活躍のための組織や研究の事業化のための組織も設立されているので、その仕組みの中で、本プログラムが有効に機能することが見込まれる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新分野や融合領域での数多くの研究テーマ全体を俯瞰できるマップを作成し、このプログラムでどれだけ取り組む領域が拡大することができたかを見せることが必要である。その中から、どんな新産業につながるかの議論も継続して行ってほしい。 ・ プログラムの志願者を増やすため、博士課程への進学を確約せずに、修士学生を入学させるという改善案は、柔軟に考え進めると良いと考える。その中から博士進学者を増やすためには、上記の生活支援の奨学金や女性の活躍支援の仕組みをパッケージでみせる工夫も必要である。 ・ これまで提案のあった実施事項のうち、いくつかの実施の困難な内容を、中止するとの説明があった。多くは感染症の状況を踏まえての変更であるが、その中でも学生の要望の多い海外留学を支援する内容は、国際学会への参加と独立して評価項目に残し、感染症収束後の再開状況を評価できるようお願いしたい。 			